

研究部長打合會議現狀報告

自昭和三年度
至昭和八年度

海軍燃料廠研究部

秘

成

果

控

海軍燃料廠研究部

大正十五年
昭和元年
昭和二年
昭和三年

年度研究實驗項目數比較表

海軍燃料廠研究部

年 度	大正十五年 昭和元年		昭和二年		昭和三年 (背于現在)	
	前年度ヨリ ノ 繼續	年度内新規	前年度ヨリ ノ 繼續	年度内新規	前年度ヨリ ノ 繼續	年度内新規
訓練 研究實驗項目數 (1)	—	—	—	—		
全上完成數 (2)	—		—			
自 研究實驗項目數 (3)	三一	一八	三七	一一	二九	五
全完了數 (4)	一三	五	一四	七		
(1) 計 (3)	三二	一九	三八	一一	二九	五
(2) 計 (4)	一四	五	一五	七		
報告作成 提出數	六	四	一四	五		

自昭和二年
初頭
至三年五月二十日

提出發行研究實驗報告書類調

海軍燃料廠研究部

自昭和三年五月初頭
 至三年五月二十日
 提出發行研究實驗報告書類調
 海軍燃料廠研究部

研究事項若くは報告書類名	機密 種別	発行 年月日	廠報告番號	部報告番號	記事(担当者)
アセチレンより液体燃料ヲ 合成スル研究(第四報)	普通	二一〇	研究報告 第二卷 第一號		海軍技手 藤尾 誓 白井 章
金屬反應管がアセチレン、 窒素及ボス影響	部外秘	二一〇	號外		海軍機關少佐 別府良三 技生 宮田吉郎
石油、ピッチヨリ安定ナル「トロー レン」製造(石油、ピッチ利用、 研究第二報)	普通	二一一	研究報告 第二卷 第二號		海軍機關少佐 別府良三 技生 宮田吉郎
低溫「アール」油ト混合際 生ズル沈澱物ニ就テ(石油、ピッチ 利用、研究第三報)	普通	二一一	第二卷 第三號		海軍機關少佐 別府良三 技生 宮田吉郎
石炭ノ水分ノ研究(第二報)	普通	二一一	第二卷 第三號		海軍機關少佐 別府良三 技生 宮田吉郎
工業用「ベンゾール」ノ金屬腐 蝕ニ就テ	普通	二一一	第二卷 第四號		海軍技手 藤尾 誓

分解蒸溜残滓油ヨリ変圧器油ノ試製(分解蒸溜實驗報告第三報) 低温乾溜實驗報告(第一報) 「カピットソン」式低温乾溜裝置(其二)	普通	二一四	實驗報告第一二卷	海軍機關少佐 別府良三 技生 宮田吉郎
油類試驗法ニ関スル實驗報告(炭化分量法ニ就テ) 給油機油槽並諸管腐蝕防止ニ関スル實驗報告	普通	二一八	第二卷 第四號	海軍機關少佐 上田儀治 海軍技師 秋田 穰 海軍技師 吉弘太作 海軍技師 緒方秀雄
油類試驗法ニ関スル實驗報告 潤滑油ノ抗乳化度試驗法ニ就テ	普通	二一九	第二卷 第七號	海軍技師 下田健市 明石義作
油類試驗法ニ関スル實驗報告 輕質油類ノ硫黃定量法ニ就テ	普通	二一一	第二卷 第八號	技生 福谷米輔
低温乾溜實驗報告(第二報) 「カピットソン」式低温乾溜裝置(其一、二) 低温乾溜實驗報告(第三報) 撫順油頁岩實驗報告	普通	二一二	第二卷 第九號	海軍機關少佐 玉城直吉 囑託 山口昌三 海軍技師 島村 浩
A.S.T.M.分溜試驗法ニ於ケル初溜溫度ニ対スル室溫ノ影響ニ就テ 潤滑油ノ變質ニ関スル實驗報告(第一報) 「カピソン」油ヲ用テ度Cニ加熱シタル場合ノ性状變化ニ就テ	普通	三一	第三卷 第一號	海軍技師 秋田 穰 印刷中 原田 巖
潤滑油ノ變質ニ関スル實驗報告(第二報) 「カピソン」油ヲ用テ度Cニ加熱シタル場合ノ性状變化ニ就テ	普通	三一	第三卷 第二號	海軍技師 下田健市 印刷中 明石義作

分解蒸溜残滓油ヨリ変圧器油ノ試製(分解蒸溜實驗報告第三報) 低温乾溜實驗報告(第一報) 「カピットソン」式低温乾溜裝置(其二)	普通	二一四	實驗報告第一二卷	海軍機關少佐 別府良三 技生 宮田吉郎
油類試驗法ニ関スル實驗報告(炭化分量法ニ就テ) 給油機油槽並諸管腐蝕防止ニ関スル實驗報告	普通	二一八	第二卷 第四號	海軍機關少佐 上田儀治 海軍技師 秋田 穰 海軍技師 吉弘太作 海軍技師 緒方秀雄
油類試驗法ニ関スル實驗報告 潤滑油ノ抗乳化度試驗法ニ就テ	普通	二一九	第二卷 第七號	海軍技師 下田健市 明石義作
油類試驗法ニ関スル實驗報告 輕質油類ノ硫黃定量法ニ就テ	普通	二一一	第二卷 第八號	技生 福谷米輔
低温乾溜實驗報告(第二報) 「カピットソン」式低温乾溜裝置(其一、二) 低温乾溜實驗報告(第三報) 撫順油頁岩實驗報告	普通	二一二	第二卷 第九號	海軍機關少佐 玉城直吉 囑託 山口昌三 海軍技師 島村 浩
A.S.T.M.分溜試驗法ニ於ケル初溜溫度ニ対スル室溫ノ影響ニ就テ 潤滑油ノ變質ニ関スル實驗報告(第一報) 「カピソン」油ヲ用テ度Cニ加熱シタル場合ノ性状變化ニ就テ	普通	三一	第三卷 第一號	海軍技師 秋田 穰 印刷中 原田 巖
潤滑油ノ變質ニ関スル實驗報告(第二報) 「カピソン」油ヲ用テ度Cニ加熱シタル場合ノ性状變化ニ就テ	普通	三一	第三卷 第二號	海軍技師 下田健市 印刷中 明石義作

低溫乾溜實驗報告(第四報) 子七式低溫乾溜裝置 (其一)	普通	三一四	實驗報告 第三卷 第三號	海軍機關少佐 玉城直吉 嗎託 山口昌三 海軍技手 島村 浩 印刷 中
低溫乾溜實驗報告(第五報) 小堅式低溫乾溜裝置	普通	三一五	第三卷 第四號	海軍機關少佐 玉城直吉 嗎託 山口昌三 海軍技手 島村 浩 印刷 中
油類石炭類規格集	普通	三一三		海軍燃料廠
燃料油並潤滑油類試驗法	普通	二一一		海軍燃料廠

自昭和二年度初頭
至三年五月二十日
期間實施セル主要研究實驗事項概要

海軍燃料廠研究部

自昭和三年度初頭
至三年度三月二十日
期間實施之主要研究實驗事項概要
海軍燃料廠研究部

目次

番一 號	研究 事項名	關係 通牒年 月番號 (自第 之 至 之)	報告 番號	頁	擔當者 記事
一	低溫 乾溜實驗		實驗報告 第一卷 第二號 (第一報)	1	海軍燃料廠 少佐 王城直吉 囑託 山口昌三 海軍技手 島村 浩
"	"		第二卷 第九號 (第二三報)	3	"
"	"		第三卷 第三號 (第四報)	4	" (印刷中)
"	"		第三卷 第四號 第四號 第五號 (第五報)	5	" (印刷中)
"	式低溫乾溜炉ニヨル生成物 (試驗)			6	囑託 山口昌三 技師 米谷省三 (成績取纏中)

一	二	三	四	五	六
低温乾燥實驗 (「式」低温乾燥裝置)	低温乾燥の基礎的研究	アセチレンより液体燃料ヲ合成スル研究 金屬及應心管カアセチレン重 合ニ及ボス影響	石油ピッチ利用の研究	石炭ノ水分ノ研究	工業用ベンゾールノ金屬 腐蝕ニ就テ
		研究報告 第一卷 第一號	號外 (第一報)	第二卷 第三號 (第二報)	第二卷 第四號
		7	8	11	12
海軍機關少佐 玉城直吉 (成績取纏中)	囑託 生 山口昌三 生 米谷省一 生 北村 白	海軍技手 藤尾 警 白井 章	海軍機關少佐 別府良三 技 生 宮田吉郎	囑託 生 根本福治 大熊庫治	海軍技手 藤尾 警 (印刷中)

七	八	九	一〇	〃	〃
分解蒸溜殘滓油ヨリ麥 圧器油ノ試製	重油専焼ノ際ニ於ケル 白煙ニ就テ	給油艙油槽並諸管腐蝕 防止ニ關スル實驗	油類試驗法ニ關スル實驗 (炭化分定量法ニ就テ)	潤滑油ノ乳化度試驗法ニ就テ	
實驗報告 第一卷 第一號	第二卷 第三號	第二卷 第五號	第二卷 第四號	第二卷 第七號	
12	13	13	13	14	
海軍機關少佐 別府良三 技 生 宮田吉郎	海軍機關少佐 上田儀右門 海軍技師 秋田 稔 海軍技手 吉弘太作 緒方秀雄	海軍技師 秋田 稔 技 生 福谷米輔	技 生 福谷米輔	海軍技師 下田健市 技 生 明石義作	

一八	一七	一六	一五
油類試験法ニ関スル研究	規格ニ関スル研究	揮発油規格改正ニ関スル準備實驗	揮発油硫酸吸収試験ニ関スル研究
		一五九、一 第ニ〇號	
昭和三年三月 達第ニ二號 ヲ以テ發布	一部改正案 提出昭和三年 三月達第ニ二 號ニテ發布	一 報告部	
19	19	19	18
海軍技師 秋田 穰 海軍技師 下田 健市 海軍技師 吉弘 大作 海軍技師 福谷 米輔	海軍技師 秋田 穰 海軍技師 下田 健市	海軍技師 秋田 穰 (一部報告調製中)	海軍技師 秋田 穰 (報告調製中)

一四	一三	一二	一一	"	"
各種重油ノ混合ニヨル粘度、変化ニ関スル研究	「ヒツチ」ノ人體ニ及ボス影響ノ研究	潤滑油ノ變質ニ関スル實驗	撫順頁岩油分解蒸溜實驗	" (A.S.T.M.分銅試験法ニ於ケル初溜溫度ニ對スル室溫影響ニ就テ)	" (輕質油類ノ硫黃定量法ニ就テ)
		第ニ卷 第ニ號	第ニ卷 第ニ號	第ニ卷 第一號	第ニ卷 第八號
18	17	16	16	15	14
海軍技師 下田 健市 海軍技師 明石 義作 (成績取纏中)	海軍技師 小川 亨 海軍大尉 三宅 正一	海軍技師 下田 健市 海軍技師 明石 義作 (印刷中)	海軍技師 工藤 華介 海軍技師 小池 清澄 海軍技師 宮田 吉郎	海軍技師 秋田 穰 海軍技師 原田 巖 (印刷中)	海軍技師 福谷 米輔

本文

一貫
番號

研究
實驗

事

項

一

(1) 低温乾溜實驗 (第一報)

ガ式乾溜爐ノ性能ヲ確メ其ノ工業的價値ヲ決定セン
 ガ爲原料トシテ新原ニ種塊炭ヲ使用シ種々ノ條件ノ下ニ
 乾溜ヲ行ヒ其ノ成績ヲ比較研究セル實驗結果ヲ記述セ
 ルモノニシテ其ノ變化シ得ル條件トシテ加熱溫度投入量
 (一日處理量) 及乾溜時間ヲトレリ
 由來本式ニハ瓦斯取出口ハ炉ノ上段及下段ノ二箇所アレドモ
 本實驗ニ於テハ總テ上段ヨリ瓦斯ヲ取出セリ各成績ヲ精
 細ニ比較スレバ相當差異アレドモ大體溫度(炉下段外部
 ニテ) 五〇〇―七〇〇度C 投入量(毎日) 六一―一五屯及乾溜
 時間ニ七―五時間範圍ニ於テハ本式炉ハ「タール」七一〇
 % 「コーク」ト六五―八〇% 瓦斯一三〇―二五〇 $\frac{cm^3}{ton}$ ノ収量

アリ而シテ (1) タールノ比重が何レモ 0.980 以下ナルコト (2) 直接石油系産油ト混油セル際著シキ沈凝ヲ生セサルコト (3) 加熱用瓦斯量が生成瓦斯量ノ約 50% ニテ充分ナルコトヲ明ニセリ

(2) 低温乾溜實驗 (第二報)

低温乾溜實驗報告第二報 (第一卷第二號参照)ニ於テ、ガ式乾溜炉ノ性能ヲ調査スルタメ種々ノ乾溜條件ノ下ニ乾溜ヲ行ヒ生成瓦斯ヲ上段瓦斯取出口ヨリ採集シ比較實驗ヲ行ヒシガ本實驗ハ乾溜條件ヲ前回ト略同一トナシ生成瓦斯ヲ下部瓦斯取出口ヨリ採集セル時其ノ生成物が如何ニ影響セルカヲ見シガ為ニ行ヘルモノナリ即チ乾溜温度 (炉下段外部ニテ) 50.0-70.0 度ニ投入量 (毎日) 6.1-2.0 屯 乾溜時間ニ 9-15 時間ノ範圍ニ於テ實驗ヲ行ヒタルニ、タール収量ニ 17% ニシテ甚シク小ナリ又、ゴライトニ 6.8-7.4% ニシテ稍多ク瓦斯ハ 9.0-19.0 $\frac{cm^3}{ton}$ ノ収

量トナレリ而シテ (1) タールノ比重ハ約 1.0 ナルト石油系産油ト混油セル際著シキ沈凝物ヲ生セサルコト (2) 加熱用瓦斯モ前回ト略同様生成瓦斯量ノ約 50% ニテ充分ナルコト (3) 本實驗ニ於テ、前回ノ實驗結果ト同様ニ各實驗ニ於ケル生成物ノ性質ハ著シキ変化ナキ事ヲ明ニセリ 而シテ前實驗ニ比シテ「ゴライト」収量多ク「タール」ノ収量少ク且「タール」ノ比重粘度等大ナルガ爲油採集ノ目的ニ對シテハ取出口ヲ下段トナスハ不利ナルコトヲ認メタリ

(3) 低温乾溜實驗 (第三報)

撫順産頁岩ヲ「チ」式及「ダ」式裝置ニテ乾溜實驗ヲ施行シタルニ (1) 「ダ」式ニテ上部ヨリ瓦斯ヲ取出シタル場合ニハ「タール」収量 5% ニテ實驗室的乾溜成績ト略近似スル結果ヲ得タルモ「チ」式ノ下部ヨリ瓦斯ヲ取出セル場合及「チ」式ニテ乾溜セル際ハ「タール」収量 3% ニ過ギズ是レ「チ」式炉ニテ取出口下部ノ際ハ「タール」ノ熱分解ニ依ルコト多ク「チ」式

ニ於テハ其ノ炉ノ性質上乾溜尚不充分ナル爲ニシテ何レ
 モ油頁岩乾溜ニハ不適當ナリト考ヘラル (2) タールハ何レ
 モ燃料油トシテ石油系炭化水素トヨク混合シテ使用シ得ルコ
 トヲ明ニセリ (3) 加熱用瓦斯ハ生成瓦斯ノミニテハ不充分ニシテ
 コ式ニ於テハ發生炉用燃料トシテ油頁岩一瓶ヲ乾溜スルニ
 新原炭約一〇〇斤ヲダ式ニテハ五〇斤ヲ要ス
 (4) 低温乾溜實驗 (第四報) 印刷中

本邦産石炭ニ對スルコ式ノ性能ヲ確ムル第一歩トシテ
 粘結性ヲ殆ド有セザル新原塊炭(瀝青炭)ヲ數種ノ異ナ
 レル條件ノ下ニ乾溜ヲ行ヒ其ノ生産物ノ得量及性質ヲ比
 較シ夫ヨリ乾溜條件ノ生成物及ボス影響者ヲ論ジ保セテ
 本式ノ機能ニ付キ其ノ特徴ノ二三ヲ述ベントス

而シテ本炉ニヨル生産物ノ共通性トシテ (1) タールノ比重何
 レモ壹ク一〇以上ナルコト (2) 直接石油系重油ト混ズル際著
 シク沈澱物ヲ生ズルコト (3) コーライトハ脆弱ニシテ粉狀トナリ

易キコト等ヲ 又機能ニ就テハ (1) 短時間ニテ成程度ノ乾
 溜ヲ了シ得ルコト (2) 補助加熱用瓦斯ヲ要スルコト (3) 其
 ノ機構簡單ニシテ取扱容易ナルコト等ヲ確ノ得タリ

(5) 低温乾溜實驗 (第五報) 印刷中

石炭ヲ低温乾溜スル際其ノ生成物ノ収量及性質ニ影
 響者ヲ及ボスベキ條件ハ種々アレドモ堅式炉ニ於テ乾溜温度
 及瓦斯取出口ノ位置ニ依ル影響者ヲ確メシメ小型ノ實驗
 爐ヲ製作シテ炉ノ上部ヨリ下部ニ至ル間ニ四ツノ取出口ヲ
 設ケ各温度ニ於テ各取出口ヨリ瓦斯ヲ取出シタル際其ノ生
 成物ニ如何ナル變化ヲ生ズルカヲ見ントシテ他ノ條件ハ出未得
 ル限リ一定ニ保ツ如ク努メタリ 而シテ其ノ實驗結果ヨリ

- (一) 低温乾溜ノ範圍ニ於テ新原炭ヲ乾溜スル際所謂限界
 點トモ謂フベキ温度ハ五〇〇度附近ナルコト
- (二) タール収量ノ最も多キ乾溜温度五〇〇度附近ニシテ
 瓦斯取出口ノ位置ハ本炉ニ於テハ全長ノ下端ヨリ約

附近ノ場合ナルコト

(三) 取出口ノ影響ハ乾溜温度上昇ト共ニ次第ニ不明瞭トナル

以上ニヨリ石炭ヲ低温乾溜ニ附シテ油ヲ採取セントスル際其ノ収量並品質ヲ考慮スル時瓦斯取出口ノ位置ガ重要ナル一因子ナル事ヲ明ニスルヲ得タリ

(6) 式低温乾溜炉ニヨル生成物ノ試験(成績取纏中)

量キニ付テ新原炭ヲ乾溜セル際取出口ヲ上部及下部トセル為其ノ生成物タルニ付、収量並性質ニ差異アル事ヲ察見セシガ今回比較ノタメ取出口ヲ中段トセル時其ノ性質ニ如何ナル変化アルカヲ見ントシテ實驗ヲ行ヒシモノニシテ、タルノ収量稍多ク其ノ性質ハ約上段及中段ノ中間ニアル事ヲ認メタリ

(7) 式低温乾溜装置(成績取纏中)

朝鮮褐炭三種ニ就キ實驗ヲ行ヒタルニ石炭ガ粉狀ヲナ

ナスヲ以テ處理困難且「タル」ノ収量 $\frac{3}{10}$ 以下ニシテ本式ニテ乾溜ヲ行フハ不適當ナリト認メラル

二 低温乾溜ノ基礎的研究 (成績取纏中)

米國鑛山局炉ニテ新原炭ヲ種々ノ温度ニテ乾溜シ其ノ生成物タル瓦斯「タル」「コライト」ヲ精細ニ調査セルモノニシテ其ノ結果

- (一) 「タル」ヲ得ル為ニ適當乾溜温度ハ 500° 度ナルコト
- (二) 乾溜温度 500° 度ガ低温乾溜範圍ニ於ケル一ツノ臨界点ナルコト
- (三) 各温度ニ於ケル元素分布熱分布揮發分分布ヲ明ニセリ

三

「アセチレン」ヨリ液体燃料ヲ合成スル研究
金屬反應管ガ「アセチレン」ノ重合ニ及ボス影響

「アセチレン」ノ縮合ニヨリ輕質代用燃料ヲ得ントスル方法ヲ工業的ニ稼行スル爲ニ其ノ反應筒ヲ金屬其ノ他堅牢ナル材料ヲ以テ製作スルコト必要ナリサレド微粉狀ノ各種金屬、内銅、鐵、ニッケル、コバルト等ハ「アセチレン」ヲ炭素ト水素ニ分解シ其ノ縮合生成割合極メテ悪キコト明ナレドモ之等金屬筒ヲ反應管トシテ用ヒ「アセチレン」ヲ縮合セシムルト同時ニ各種金屬筒ニ加工シ金屬面ノ作用ヲ減少セシメ該反應筒ノ使用ノ可否ヲ究メントス大體銅、鐵、ニッケル、「アルミニウム」、磁製筒ヲ用ヒシニ各金屬筒及之ニ加工セシモノハ「アセチレン」ヲ分解シ使用ニ適セザルモ磁製筒ハ「アセチレン」ノ縮合ニ適スルコトヲ明ニセリ

四

石油「ピッチ」利用ノ研究 (第一報)
石油「ピッチ」ヨリ重油ノ製造ニ就テ

石油「ピッチ」中ヨリ重油ニ可溶性物質ヲ抽出シ燃料重油増産ノ一法ニ就キ實驗セリ抽出量ハ「ピッチ」並重油ノ性状ニヨリ異ナルモ石油「ピッチ」ハ重油ニ約九〇%溶解シ燃料重油ヲ増産スルコトハ容易ニシテ簡單ナル工業的裝置ニヨリテ加工スル事ヲ得ベシ「ピッチ」ノ價格如何ニヨリテハ平時ニ於テモ實施シ得ベク戰時ニアリテハ本邦産ノモノノミヲ用ヒテモ約三万吨ノ重油ヲ増産シ得ルハ容易ニシテ液体燃料資源ノ一トシテ重要ナルモノト信ズ

(二) 石油「ピッチ」利用ノ研究 (第二報)

石油「ピッチ」ヨリ安定ナル「ペトローレン」ノ製造
石油「ピッチ」中ノ揮發油可溶性分ヲ抽出シ溶劑ノ存在ノ下ニ於テ硫酸精製ヲ行ヒ溶劑ヲ回收スルコトニヨリ安定ニシテ粘稠ナル「ペトローレン」ヲ「ピッチ」ニ對シ約四〇%ヲ得タリ

「ペトローレン」ヲ溶劑ニテ抽出スル際低溫「タール」ヨリ得タル「タール」

酸類ヲ添加スルトキハ沈澱トシ澄液トシ分離容易ニシテ少量ノ溶劑ヲ用フルモ比較的少量ノヘトローレンシヲ收得シ得ベキヲ察見セリ

(3) 石油、ピッチ利用ノ研究(第一報)

低温「タール」ト重油トノ混合ノ際生ズル沈澱物ニ就テ

重油ト低温「タール」ト混合ノ際生成スル沈澱物ハ揮發油ニ難溶性ノモノニシテ其ノ大部分ハ「タール」酸類ナリ此ノ外ニ苛性曹達溶液ニ不溶性ノ物質ヲ伴フ而シテ後者ハ「タール」酸類ニ可溶ナルコト及「タール」酸ノ空氣酸化ニヨリ得ラルル点ヨリシテ沈澱物生成ノ主因ハ「タール」酸類ニアルコトヲ記述セリ低温「タール」ノ「タール」酸ハ加熱ニヨリテ揮發油ニ對スル溶解度ヲ異ニシ来ルコトヨリ蒸溜々出セル低温「タール」ガ重油トヨク混和スル事實ヲ明ニセリ又「式」及「式」式低温乾燥炉ヨリ得タル「タール」酸ヲ揮發油ニヨル溶解度ニヨリテ別々各「タール」ガ重油ニ對スル混合ノ状態ニ差

アル理由ヲ説明セリ

五

(1) 石炭ノ水分ノ研究(第一報)

恒濕槽ニ關スル實驗

塩化「カルシウム」溶液ヲ用ヒタル恒濕槽中ニ於ケル石炭ノ重量變化ヲ測定シ其ノ結果ヨリ此ノ式ノ恒濕槽ハ實驗室ニ於ケル石炭試料ノ貯藏ニ最モ適當セル事ヲ明ニセリ

(2) 石炭ノ水分ノ研究(第二報)

水分ノ定量法ニ就テ

石炭ノ水分ノ定量法ハ種々アリ然シテ之ヲ行フ際ニ注意スベキ点モ尠シトセズ本報告ニ於テハ主トシテ石炭粒ノ大小ト水分ノ關係空氣中ノ酸素ニヨル測定中ノ酸化及加熱溫度ノ影響等ニツキテ實驗ニ從來開却セラレタル点ニ重要ナル問題ノ存スル事ヲ示セリ

六

工業用「ベンゾール」ノ金屬腐蝕ニ就テ (印刷中)
 「モーターベンゾール」ノ金屬腐蝕ノ原因ニ就キ研究シ其
 ノ主因ヲ該「ベンゾール」中ニ含まルル硫黃化合物特ニ硫
 化炭素ニアリトシ之等化合物ハ水分又ハ空氣ノ存在ニ於
 テ分解シ硫黃ヲ遊離シ之ガ金屬ノ腐蝕作用ノ因ヲナスト
 結論シ且各種硫黃化合物ヲ純「ベンゼン」ニ混合シ金屬ノ
 腐蝕力ノ強弱ヲ考察セリ

七

分解蒸溜残滓油ヨリ差圧器油ノ試製
 「ハートン」式分解蒸溜法ニテ得タル残滓油ヨリ粘度少ク
 引火点高キ差圧器油ヲ容易ニ試製スルヲ得タリ本實驗
 ノ結果ニシテ直ニ工業的ニ採用シ得ルモノトセハ本邦ニ於ケ
 ル分解蒸溜工業ヲ一層有利ナラシムルモノトシテ相當効
 果アルモノト信ズ

八

重油専焼ノ際ニ於ケル白煙ニ就テ
 重油噴燃ノ際ニ於ケル白煙ハ主トシテ重油ニ類スル油
 粒ノ燃燒瓦斯中ニ懸垂スルモノニシテ理論上必要ナル空
 氣量ノ約五倍以上ノ過剩ノ空氣ヲ供給スル場合發生スル
 モノナリ

九

給油艙油槽並諸管腐蝕防止ニ関スル實驗
 本實驗ハ給油艙油槽内ニ「バラスト」トシテ海水ヲ搭載
 シタル場合腐蝕防止法トシテ保護亜鉛板ニ使用ノ効果ヲ
 数字的ニ決定セルモノニシテ實驗ノ結果保護亜鉛板ノ
 使用ノ腐蝕防止上有効ナリト認ム

一〇

油類試驗法ニ関スル實驗
 炭化分定量法ニ就テ
 従來炭化分定量法トシテ普通用ヒラルル「コンラードソン」

氏法、實驗、結果加熱溫度試料採取量等種々、原因ヨリテ測定値ヲ左右セラレ比較的誤差多キ結果ヲ與フル事ヲ認メ其、誤差ノ範圍ヲ明ニスルト共ニ電氣加熱法ニ依リ坩堝内溫度ヲ一定ニ保テ比較的誤差少キ結果ヲ與フル改良法ヲ得タリ

(2) 潤滑油ノ抗乳化度試驗法ニ就テ

「タービン」用潤滑油ノ抗乳化性、最重要ナル性質ノ一ニシテ海軍ニ於テモ攪拌離水試驗ナル項目ノ下ニ其ノ良否ヲ判定セントスル方法アリト雖試驗法甚ダ不備不健全ニシテ却テ多クノ疑惑心ヲ生シツツアル現況ナリ 本實驗ニ於テハ現行海軍採用方法ニ就キ一々其ノ不合理ノ点ヲ指摘スルト共ニ抗乳化度試驗法トシテ如何ナル方法ヲ以テ合理的トスルヤヲ實驗的ニ決定シタルモノナリ

(3) 輕質油類ノ硫黃定量法ニ就テ

從來多數文献ニ現レタル石油類ノ硫黃定量法ニ就

ニ就キ種々比較實驗ヲ行ヒ夫等ノ良好ナル点ヲ參考トシ操作簡便ニシテ而モ比較的正確ナル結果ヲ與ヘ且輕質油類ノ硫黃定量ニ適セリト認メラルル新方法(燃料油及潤滑油類試驗法第九號参照)ヲ得タリ

(4) A. S. T. M 分溜試驗法ニ於ケル初溜溫度ニ對スル室溫ノ影響ニ就テ(印刷中)

A. S. T. M. 試驗法ニ從ヒ揮發油類ノ分溜試驗ヲ行フ場合同一試油ニ於テモ其ノ初溜溫度ハ室溫ニヨリ異ルヲ以テ其ノ關係ヲ明ニスル爲實驗ヲ行ヒタル結果初溜溫度ハ室溫ノ變化ニ伴ヒ直線的ニ變化シ室溫ノ上昇換氏一度ニ對シ初溜溫度ハ0.35度上昇スルト從テ初溜溫度ハ常ニ試驗當時ノ室溫ヲ附記スルカ或ハ一定ノ標準溫度ニ換算スル要アルヲ認メタリ

※ American Society of Testing materialsノ略稱ナリ

一一

撫順頁岩油分解蒸溜實驗

撫順頁岩油ヲ分解蒸溜ニ付シ揮發油收得量約二〇%ヲ得ベキヲ實驗シ石油系重油ノ分解狀況ト比較セリ併セテ分解溜出油ヲ氣相ニ於テ白土精製ヲ行ヒ其ノ結果ノ有効ナルヲ報告セリ

一二

潤滑油ノ麥質ニ関スル實驗報告(第一報)(印刷中)

「タービン油ヲ一五〇度Cニ加熱シタル場合ノ性状變化ニ就テ

「タービン油ヲ長時間繼續使用スル時ハ漸特品質ヲ低下シ遂ニ使用ニ得ザルニ至ル而シテ艦船ニ於テ實際使用中、タービン油カ如何ナル程度ニ品質ヲ低下セルヤヲ知ラントスル事ハ最モ重要ナル故ニタービン油カ麥質ニヨリ其ノ如何ナル性状ニ最モ顯著ノ差ヲ示スヤ 換言スレバ僅少ノ麥質ヲモ比較的明確ニ指示シ得ルモノハ如何ナル性状ナリヤヲ確定スルコトハ最モ緊急ノ問題ナリトス 本實驗ニ

一三

「ピッチ」ノ人體ニ及ボス影響

於テハ上述ノ目的ヲ以テ「タービン油ヲ空氣中ニ於テ一定高溫度ニ長時間保持シ時間ノ経過ニ從ヒ其ノ性状變化ニシキ普通行ハルル性状試験ヲ行ヒタル結果僅少ノ麥質ニ由テモ最モ顯著ノ差ヲ示スモノハ抗乳化度ニテ其ノ他ノ性状ハ殆ド變化ヲ認メ難キコトヲ明ニシ「タービン油」ノ使用限度決定ニ對シテモ抗乳化度ノ減少度カ重要ナル指標ノ一トナルベキコトヲ推定セリ

「ピッチ」ノ各成分ヲ兔ノ耳及脊部ニ塗布シテ炎症ノ程度ヲ比較研究セルモ其ノ結果常ニ一致セズ尚刺戟ト炎症トヲ別個ニ考フル必要アルヲ認メタルヲ以テ本實驗ヲ一先ツ打切り新ラシク 京大醫學部 松本博志ニ動物實驗ヲ依托スルコトトセリ

一四

各種重油ノ混合ニヨル粘度ノ變化ニ関スル研究

(成績取纏中)

加州、タラカン及「オハ」重油ニ就テ各割合ニ於ケル粘度變化ヲ測定シ其ノ結果ヨリ一定ノ關係ヲ求メ以テ所要ノ粘度ヲ得ントスル場合ニ於ケル混合割合ヲ決定スル資料トナス

一五

揮發油硫酸吸收試験ニ関スル研究

(報告作製中)

燃料油及潤滑油類試験法中硫酸吸收試験ニ於ケル振盪溫度放置時間等ノ影響ヲ明ニセンガ爲實驗セルモノニシテ實驗ノ結果成績法トシテハ摄氏五度以下ニテ一五分間振盪シ常溫ニテ二四時間放置セル後硫酸層ノ增量ヲ測定スルヲ最モ適當ニシテ且便ナルコトヲ認メタリ

一六

揮發油規格改正ニ関スル準備實驗 (報告調製中)

航空三號揮發油ヲ一ヶ年間密閉貯藏スル場合ノ性狀、變化ヲ知ラントシテ實驗セルモノニシテ二月毎ニ密閉油槽ヨリ試料ヲ採取シ比重測定及分溜試験ヲ行ヒタル結果油槽ニ漏洩ナキ時ハ一ヶ年間ノ貯藏ニヨリ性狀ニ變化ヲ認メザリキ

一七

規格ニ関スル研究

試験法制定ノ結果トシテ當然改正ヲ要スベキ項目ニ就テハ既ニ之ヲ改正シ昭和三年三月連二十一號ヲ以テ公布済ナルモ尚合理的規格制定ノ目的ヲ以テ研究調査中

一八

油類試験法ニ関スル研究

可及的完全ナル試験法ヲ得テ部内ニ於ケル油類試験結果ノ統一ヲ計ル爲之ガ研究實驗ヲ行ヒ其成案

ヲ得タルヲ以テ報告セリ（昭和三年三月連第ニ十二號ヲ以テ
布）

（終）

發明考案受賞者及受特許者調（昭和三年五月三日調）

海軍燃料廠 研究部

發明考案受賞者及受特許者調 海軍燃料廠研究部 (昭和三年五月二十日調)

受特許者調 (高等官)

名 稱	特許番號	年月日	特許權者	發明者	特許要領
石炭ヨリ液狀燃料ヲ製造スル方法	第四三五八號	大正十年十月三日	海軍大臣	下田健市	本發明ハ石炭又ハ其ノ類似物中ヨリ可溶成分ヲ抽出スル爲メ、パイロナフタリンヲ溶劑トシテ使用シ液狀燃料ヲ製造スルコトヲ特徵トスル方法ニ係リ其ノ目的トスル所ハ經濟的ニ且簡單ニ石炭及其ノ類似物ヨリ液狀燃料ヲ製造セントスルニアリ
動物物油脂ノ石油化ト油頁岩ノ乾餾トヲ同時ニ行フ方法	第六五六一號	大正十四年九月十日	海軍大臣	下田健市 九山 猛	本發明ハ動物物油脂ニ油頁岩ノ粉末ヲ混和シテ乾餾スル事ヲ特徵トスル人造石油ノ製造法ニ係リ其ノ目的トスル所ハ單一ノ操業ニ由テ多量ノ石油ヲ得ントスルニアリ
油頁岩ノ乾溜法ニ於ケル改良	第六八八五號	大正十五年七月八日	海軍大臣	下田健市	本發明ハ油頁岩ヲ乾溜スルニ當リ乾溜レトルト冷却器ノ間ニ適當ナル割温蒸溜器ヲ連結スルコトヲ特徵トスル乾溜ト

<p>引火点高く且粘度少ナル 変圧器油ノ製造法</p>		<p>第七三二七號</p>		<p>昭和二年 八月廿七日</p>		<p>海軍大臣</p>		<p>別府良三 宮田吉郎</p>		<p>本發明ハ液体炭化水素ヲ 高温高压下ニ於テ分解處理 ヲ行ヒ不安定ナル炭化水素 ヲ分解溜出セシメ残留油ヨリ 從來ノ精製法ヨリテ変圧器 油ヲ製造スル方法ニシテ其ノ 目的トスル所ハ甚ク安定ニシ テ引火点高く而モ粘度僅少 ニシテ優秀ナル変圧器油ヲ 容易ニ製造セントスルニアリ</p>	<p>セル揮發油又ハキシロール蒸 氣或ハ豫メ過熱セル石炭瓦 斯又ハ揮發油ヲ含ム瓦斯ヲ含 水窒質油類中ニ吹キ込ミ揮發 油又ハ瓦斯ト共ニ水分ヲ溜出セ シムル方法ニ係リ其ノ目的トス ル所ハ從來困難トセラレタル 「ワール」或ハ其ノ他ノ油類中ノ 水分ヲ容易ニ且完全ニ除去シ 之等油類ノ後處理ヲ便利ナ ラシムルニアリ</p>
<p>油類脱水方法</p>	<p>硫黄ヲ含有セザルコナフヲ リンヲ製造スル方法</p>	<p>第七〇八〇四號</p>		<p>昭和二年 一月廿五日</p>		<p>海軍大臣</p>		<p>小川亨</p>	<p>藤尾 龍</p>	<p>本發明ハ「ワール」頁岩油 原油 其ノ他類似ノ油類ニ含有セザル ル水分ヲ除去スルメ豫メ過熱 ニ於テ最モ困難トセラレルコナフサ リンノ脱硫ヲ行フ要ナク直ニ水 素添加原料トスルニ適スル優 良ナル無硫黄コナフサリンヲ 製造セントスルニアリ</p>	<p>餘熱ノ利用ニヨル蒸溜 ヲ同時ニ行ハシムル方法ニ係リ其 ノ目的トスル所ハ簡單ニ固体 「パラフィン」及「ピッチ」様物質 ノ大部分ヲ分別シ以テ短時間内 ニ頗ル容易且經濟的ニ品位優 良ナル頁岩油ヲ得ルト同時ニ「パ ラフィン」分ニ當ル製蠟原料ヲ得 トスルニアリ</p>





豫

算



海軍燃料廠研究部

昭和二年度初頭事業概額、同決算額及本年度事業概額對照表

海軍燃料廠研究部

科目	事業	數量	二年度事業概額		記事
			金額	決算額	
廳費	圖書購入		一四六六〇〇	一四六二〇三	
旅費	雇員以上出張旅費		一七四六三〇	一七二八二〇	
建造物補修	圖書庫新營其他		一五四〇〇〇	一六三三二九	二年度不足額、他部豫算、手補充
器具機械補修	乾溜實驗用及印刷所用器具補修費		九〇〇〇〇	四六八〇五	
材料費	乾溜用石灰購入		三二四〇〇〇	三九三四六〇	
職工人夫給	乾溜實驗用職工費		一四二三八〇	二一八三六五	二年度不足額、試驗研究費、手補充
動力及需品費	電力及燃料炭、消耗品等購入		六〇四〇〇〇	五、一五九七九	
試驗及研究費	試驗研究用器具、消耗品、雇員以下人件費		一三五、一六〇〇	一、二九五三三	
合計			二、一六四、五〇〇	二、〇三四、四八五	
			二、一五、五五五	二、一五、一六〇	

受託 事項ナシ

委託 (部内)

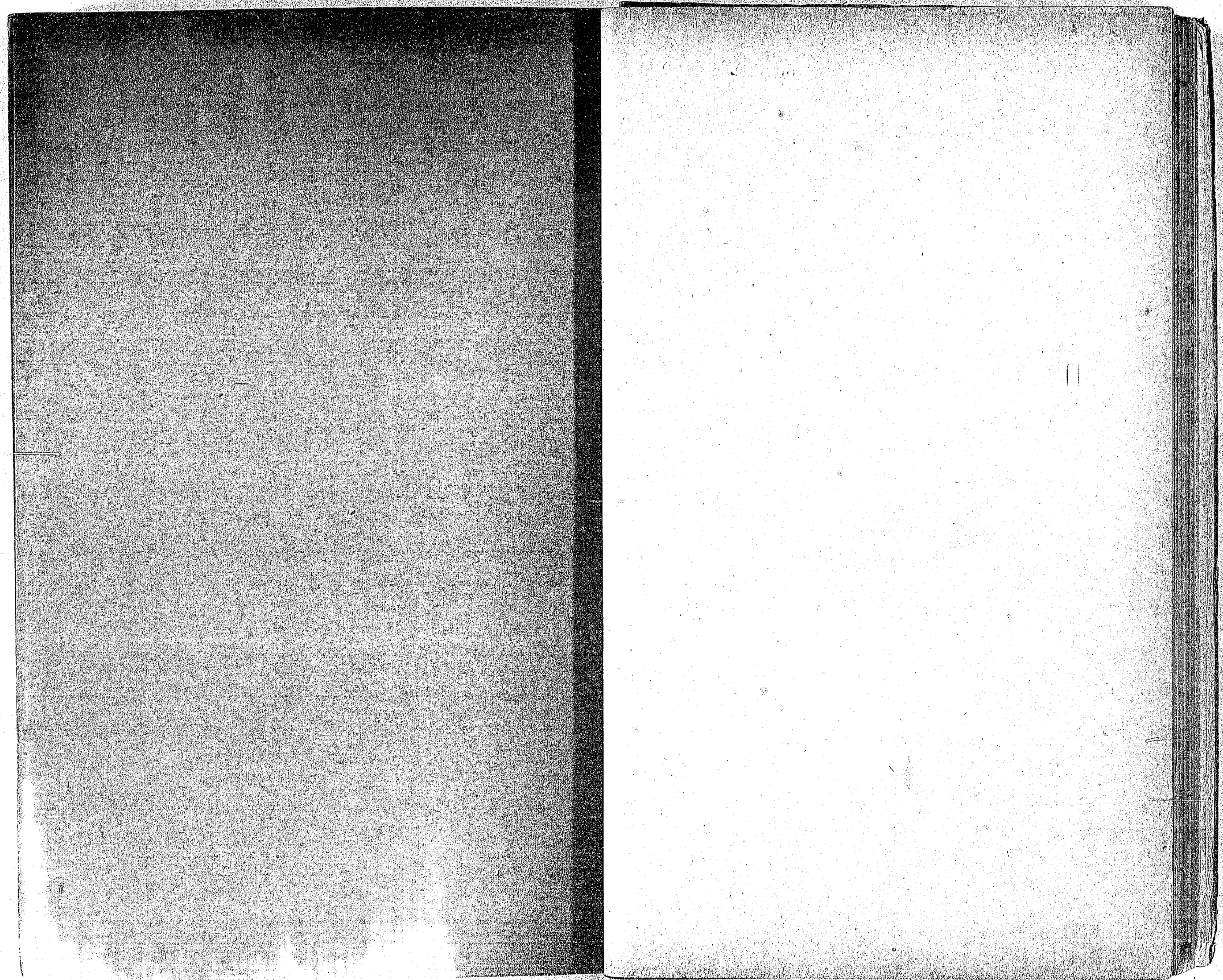
科目	事項	決算金額	記 事
試験及研究費	重油噴燃器製作	五三三三九〇	舞鶴要港部工作部へ委託
"	油類摩擦測定器附屬品製作	二〇〇〇〇〇	廣工廠機関研究部へ委託
"	低溫タール利用法ニ関スル基礎研究	五三一九五九〇	京都帝國大學小松博士へ委託
計		六〇五一九八〇	

昭和二年度職工費及附屬費調

海軍燃料廠研究部

職 工 費		附 屬 費		記 事
總 額	六三二七〇円	研究實驗ニ直接從スル者ニ對スル分	製造註文ニ對スル分	
	六三二七〇円	〇	〇	

該當事項ナシ
附屬費



秘

研究實驗作業

控

海軍燃料廠研究部

海軍燃料廠研究部事務分掌表

昭和三年五月二十日 瀨

真

分 機 區 分		主任又...分植 部員官氏名		判任官既置官氏名		技生 一 九 二 〇 三 〇 四 〇		職 一 〇 二 〇 三 〇 四 〇		分所工 一 〇 二 〇 三 〇 四 〇	
工務	庶務工務全般	兼三務主任 機關在玉城直吉		技手 吉弘大作		技生 一		分所工 二		分所工 二	
係	印刷所 印刷全般	兼燃料主任 機關在玉城直吉		技手 吉弘大作		技生 一		分所工 二		分所工 二	
研	第一班 液体燃料及潤滑油之研究並調査	兼燃料主任 機關在玉城直吉		技手 吉弘大作		技生 一		分所工 二		分所工 二	
研	第二班 液体燃料及潤滑油之研究並調査	兼燃料主任 機關在玉城直吉		技手 吉弘大作		技生 一		分所工 二		分所工 二	
研	第三班 液体燃料及潤滑油之研究並調査	兼燃料主任 機關在玉城直吉		技手 吉弘大作		技生 一		分所工 二		分所工 二	
研	第四班 液体燃料及潤滑油之研究並調査	兼燃料主任 機關在玉城直吉		技手 吉弘大作		技生 一		分所工 二		分所工 二	
科	第一班 出用燃料及潤滑油之研究並調査	兼燃料主任 機關在玉城直吉		技手 吉弘大作		技生 一		分所工 二		分所工 二	
科	第二班 出用燃料及潤滑油之研究並調査	兼燃料主任 機關在玉城直吉		技手 吉弘大作		技生 一		分所工 二		分所工 二	
科	第三班 出用燃料及潤滑油之研究並調査	兼燃料主任 機關在玉城直吉		技手 吉弘大作		技生 一		分所工 二		分所工 二	
科	第四班 出用燃料及潤滑油之研究並調査	兼燃料主任 機關在玉城直吉		技手 吉弘大作		技生 一		分所工 二		分所工 二	
科	第五班 出用燃料及潤滑油之研究並調査	兼燃料主任 機關在玉城直吉		技手 吉弘大作		技生 一		分所工 二		分所工 二	

目	目	目	海軍燃料廠、於此燃料、關之事項研究囑託
目	目	目	燃料化學的研究、關之事項囑託
目	目	目	製油並其、研究、關之事項囑託
目	目	目	燃料研究、關之事項囑託
			大島 義清
			小松 茂
			安藤 一雄
			栗原 鑑司
			(總)

本年度實施豫定、主要研究實驗事項調書

海軍燃料廠研究部

本年度實施豫定ノ主要研究實驗事項調書 海軍燃料廠研究部

主要區分	研究實驗事項	訓令通牒 年月番號 (自來支分)	目的實施方案要旨	記事 (擔當者氏名)
低温乾燥装置 生成品之関 研究	乾燥爐ニ関スル研究		最新率良好ナル炉型式ニ関スル研究	玉城島村、川瀬、町田
"	チツセン式低温乾燥装置		經濟的操作法法其ノ特徴ノ研究	玉城島村、川瀬、町田
"	タビツソン式低温乾燥装置		經濟的操作法法其ノ特徴ノ研究	玉城島村、川瀬、町田
"	低温乾燥ノ基礎的研究		乾燥生産物ノ性状試驗及實驗室の乾燥實驗ニヨリ乾燥法ノ改良ノ種々ノ材料ヨリ成ル特種「レトルト」ニ依リ種々ノ條件ノ下ニ乾燥ニテ其ノ生成物ノ質分量ヨリ乾燥法ヲ改良セントス	山口、米谷 四一、一二
"	低温「タール」ノ研究		化學組成法「アスファルテン」ノ研究、理化學的方法ニヨリ各成分ニ分離シ其ノ組成ヲ定ム	山口 四一、三

"	"	"	"	石炭煉炭及ピッチ ノ研究 炭化水素及石炭ノ熱分 解機作研究	低溫タールト重油トノ混 合ニ関スル研究	低溫タールノ分解蒸溜	ゴライトノ利用ニ関スル研究	煉炭ノ成分ニ関スル研究
"	"	"	"	ピッチノ人體ニ及ボス 影響ノ研究 煉炭ニ適當ナル洗炭處 理法洗炭装置各部ノ 洗炭成績ヲ求メ試料採 取法洗炭法洗炭装置ノ 改善ヲ行ハントス 洗炭滓及ボタ中ノ可燃 成分ノ利用法可燃物含 有程度ノ分析試法及之 ニ必要ナル装置ノ改善 煉炭ノ適當ナル貯藏法 貯藏可能期間ノ研 究調査現在使用セル 種々ノ煉炭ヲ種々ノ状態 ニテ五ヶ年間貯藏スルコト ニヨリ如何程其ノ性状変化 ヲ及ボスベキカヲ見 テ適當ナル貯藏法及貯藏 期間ヲ判定セントスルモノ シテ其ノ方法トシテ毎年物	重油ノ混合法ニ関スル研 究各種混合法ヲ比較研 究ニ當リ價値ヲ決定セシメ 分解ノ状態並ニ分解生成物 ノ一般性状低溫タールノ熱分 解ヲ行ヒ其ノ分解状態並 ニ生成物ヲ檢シ工業的價値ヲ 決定セントス實驗装置組立 完了實驗開始準備中	ゴライトノ適當ナル利用 法微粉炭燃焼煉炭ノ 製造及發生炉ニ使用 熱ニヨル石炭ノ分解ヲ明ニシ 乾溜法ノ改良真空蒸溜 法溶劑抽出法ヲ應用シテ 油類生成ノ根本ヲ明ニス	煉炭ノ成分ト若配合炭成 分トノ關係試製煉炭機 械ヲ利用シ煉炭原料ノ標 準配合炭種範圍内ニ於テ 配合率ヲ變更シ最良ト 認ムル煉炭ノ製造	ピッチ成分ノ視器及皮膚 ニ及ボス影響ヲ刺戟測定 法ヲ漸定的ニ定メタルヲ以 テ之ヲ用ヒテ刺戟性物質 除去法ヲ研究セントス
高橋 三一	別府 玉藤 四一三	玉城 吉弘 新村	住本 四一三	住本 四一三	宮下 吉弘 三一	宮下 藤田 五一	住本 根本 三一	煉炭貯藏ニ関 ル調査委員 六一九

代用燃料ニ関スル研究	"	潤滑油ニ関スル研究	"	"	輕質油ニ関スル研究
ノタン瓦斯ノ分解	廢礦油ノ處理法	潤滑油ノ研究	輕質炭化水素混合物ノ定量及分離ニ関スル研究	輕質油類ノ精製ニ関スル研究	輕質油ノ性状ニ関スル研究
ノセレンヲ得ントス電気熱處理ニ依リノメタンヲアセチレンニ結合セシム	廢ニ號外部礦油ノ變質程度ヲ究メ之ヲ再精製法ノ研究 根本的再精製法ニ就キ實驗室試驗ヨリ成案ヲ得タルヲ以テ近ク半工業的ニ施行シ面収油ヲ廣工廠ト連絡ノ下ニ實用試驗ヲ行ハントス	潤滑油ノ製法及性状ニ関スル研究 本邦原油ヨリ可及的良質ノニ號外部礦油ヲ試製シ其ノ潤滑油トシテノ性状ヲ究メントス	輕質油ノ實用上ノ價值ヲ決定スルタメ基礎的的分析法ノ研究 純粹炭化水素試料ノ化學試藥ニ對スル反應ヲ究メ合理的分析法ヲ導キカントス	精製法ノ研究 硫酸ノ合理的使用ニヨリ成ルベク經濟的ニ精製ヲ行ハントス	航空機燃料ノ基礎的研究 (1) 揮發油空氣混合瓦斯ヲ燃燒セシメ其ノ性状ヲ活動寫眞ヲ以テ撮影シ燃燒ニ関スル考察ヲ行ハントス (2) 本邦産原油ヨリ得ラルル揮發油分及奇數揮發油中各系炭化水素含有量ヲ「エグロフ」及「モレル」法ヲ改訂セル方法ニヨリ分析定量セントス (3) 揮發油揮發度ノ表示法トシテ空氣ト混ジタル場合分圧及圧力上昇即チ蒸發主要ナル時間等ヲ測定シ其ノ結果ニヨリ揮發油簡易性状檢定裝置ヲ得ントス
藤尾 四一三	下田 四一三	下田 四一三	山本 四一三	下田 福谷	秋田 中西 五一三 三一七 三一九

"	石炭、完全瓦斯化	代用燃料ヲ目的トスル石炭完全瓦斯化ノ研究 文献調査中	高橋
"	水素及一酸化炭素ノ縮合	合成燃料油ヲ得ントス 炭化水素ヲ得ル目的ヲ以テ 接觸劑ノ研究ヲ開始セリ	江口 未定
"	マセチレン瓦斯縮合ノ半工業的實驗	適切ナル裝置ノ考案並 實驗ノ裝置組立中	別府 未定
"	酒精ノ変性法	燃料酒精トシテ最有利ナル 変性法ノ研究、頁岩油 一〇〇度部分〇・三〇 ヲアルコイルニ添加シテ殆 完全ニ変性ノ目的ヲ達シ得 タリ	別府、江口 三一〇
"	石炭及「ピッチ」水素 添加	直接水素添加ヲ行ヒテ液 体燃料ヲ得ントス、独逸 「ベルギウス」工場ニ於テ製 造セル「ベルギン」油ノ性状ヲ 研究シ、其ノ性質ヲ洞悉シ 更ニ同法ヲ改良シテ工業 化セントス	小川、高橋 六一三
燃焼ニ関スル 研究	航空機燃料ノ燃焼ニ関 スル研究	各種輕質燃料ノ航空 機ニ依ル實驗研究 燃料ノ燃焼ニ關シテハ 燃料ノ燃焼ニ關シテハ 燃料ノ燃焼ニ關シテハ 燃料ノ燃焼ニ關シテハ	秋田、小西 三一七
"	罐用燃料ノ燃焼ニ関 スル研究	各種燃料ノ罐ニヨル實驗 研究、必要ナル計測器具 ヲ施設シ、各種燃料ノ燃焼 ヲ行ヒ、タカカン、重油ヲ標準 トシテ優劣ヲ比較セントス	宮下、宇本 四一三
"	「デイセル」機械用燃料 ノ燃焼ニ関スル研究	各種燃料ノ「デイセル」機 械ニ依ル實驗研究 各種燃料ニテ「デイセル」機 械ヲ運転シ、其ノ成績ヲタ ラカン、重油ヲ燃料トセル標 準、運転成績ト比較考査 シ、燃料トシテノ適否ヲ判 定セントス	秋田、山縣、杉原
雜研究	石炭及「ピッチ」ノ試驗法	一般試驗法制定 主トシテ文献ニヨリ合理的 ニシテ實際的ナル方法ヲ 判定セントス	小川、山口、吉弘、任本 三一一二
"	瓦斯分析法ノ研究	主トシテ「メタン」 ノ測定法ノ改良 液体空氣分析法ト「ヘンリ」 氏法トヲ比較シ、其ノ結果	山口、末谷 未定

"	燃料油及潤滑油ノ規 格ニ関スル研究	ヨリ改良法ヲ導ク 規格ノ統一 各國ニ於ケル規格ヲ比較 考察シ實用實驗ヲ行ヒ 以テ合理的規格ヲ測定 セントス	規格審議委員 會
委託研究	ニタール酸ノ成分	化學組成ヲ明ニシ其ノ利 用法 優秀ナル合成潤滑油ヲ得 ントス 化學的構造ト潤滑性能 トノ關係ヲ明ニシ理想 的ノ合成潤滑油ヲ得ントス	小松囑託 景平

備考

- 一、當部ニ於ケル研究實驗ハ毎年度初頭大臣訓令ニ基キ行フモノナルヲ以テ特別ノモノノ外訓令通牒年月番號ハ之ヲ掲記セズ
- 二、右ニ依リ其ノ細目ヲ當部ニテ定メ行フモノヲ自發研究ニ實驗項目トシテ記載セリ以下第十表迄同断

設

備



海軍燃料廠研究部

自昭和二年度初頭 至昭和三年青干日 期間營造物増減状況 海軍燃料廠研究部 (昭和三年青干日謝)

(一) 昭和二年度施工ノモノ

名	種	様式	坪数	記
圖書庫		煉瓦造平房建 2階上草葺	五四坪	新二圖書庫トシテ一棟建設セリ圖書整理閲覧 其他諸沿革ニ便宜極メテ多シ
印刷所		木造平房建 2階上草葺	一九五坪	作業増加ニ伴ヒ従来ニ狹隘ニ付増築セリ
分析所	實驗室	天井及該點台上 アスベスト板葺		防火設備ノ一部トシテ施工セリ
分析所	實驗室	實驗室床板ヲアスベスト 板上改修 排水室改修		

(二) 昭和三年度施工決定ノモノ

名	種	様式	坪数	記
職工食堂	車場	木造平房建 2階上草葺	五六坪	従来ノモノヲ倉庫場用ニ變更シ新ニ建設
第三實驗場			四〇坪	製油實驗場トシテ建設ノ豫定

自昭和二年度初頭 至昭和三年五月二十日 期間主要機械増減調 海軍燃料廠研究部 (昭和三年五月二十日謝)

機	種	名	主要寸法能力等	数量	製造所名	購入年月	使用途	購入價格	記事
液体空圧製造機			シリンダー型 空気圧 10kg/cm ² 出力 100kg 重量 30kg 寸法 300x150x100mm	一	エニキエーランド 代理店	昭和二年五月	研究用	六七九七円	新購入

換氣装置	石炭低温乾燥機	潤滑油試験器	石油精製機	屈折計	熱量計	加圧釜
1. 換気装置 <small>ホウロウ式大換気機 1台 ホウロウ式小換気機 1台</small>	石炭低温乾燥機 <small>連続乾燥機 2台 高圧1台 内径18寸 長さ1尺6寸 低圧1台 内径15寸 長さ1尺6寸</small>	油膜厚さ測定器 <small>適合各種液体を測定可能 容量 及三五抽出物受器 2.5リットル 公容量以上五分刻分 7.5リットル</small>	石油精製機 <small>適合各種液体を測定可能 容量 及三五抽出物受器 2.5リットル 公容量以上五分刻分 7.5リットル</small>	アソベ屈折計 <small>ユニバーサル式瓦斯熱量計</small>	常用100リットル容量 3立	常用100リットル容量 3立
—	—	—	—	—	—	—
株式会社川北	吳工廠	島津製作所	西製作所	カールツァイス	ユニバーサル	西製作所
313	1012	215	219	2112	219	2112
研究科	研究科	研究科	研究科	研究科	研究科	研究科
4394	7287	2704	4804	5730	7304	7504
新購入	破損修理	新購入				

器具ノ部

人

員

控

海軍燃料廠研究部

人員

(一) 高等官

海軍燃料廠研究部

(昭和三年五月二十日調)

在職者數	三身以上者數	計	現員		定員(員定準)			
			官武	部員	官武	部員		
1	0	1	1	部長	1	部長		
4	0	4	2	部員 附 出仕 臨時增置	2	部員 附 出仕 臨時增置		
			2		官文		2	官文
					官武			官武
					務特 官士			務特 官士
					官文			官文
					官武			官武
					官文			官文
					官武 務特 官士			官武 務特 官士
			官文		官文			
1	0	5	1	兼務	3	武官 兼務其他		
			3		武官		3	武官
			1		武官			武官
	1		1	附府守鎖				
1	0	1	1	勤務 常時 勤務	1	文官		
4	0	4	4	勤務 常時 勤務	1	官		

定員及準定員該當者

本務定員外
一 常時勤務者

一 臨時勤務者

人員

(二) 判任官以下

海軍燃料廠研究部

(昭和三年五月二十日調)

在勤者	二五以上	増減	計	他(借)	現	定
						官士准
						費軍手技
3	0	4	0	4		費事
						費軍手技増臨
						費事
						費軍手技兼
2	0	2	0	2		(任判) 託嘱
						費軍記書
						費事
						官士下
						官士下増臨
					附官 府守 鎮下	
						兵 生筆
6	9増	19	0	19		50 生技
						職 工手 特務
1	5減	1	0	1		手工
57		76	0	76		工男
						工女
3	3減	9	0	9		工習見
						夫職
						夫人時臨
						7 0 7

嘱託員調

海軍燃料廠研究部

(昭和三年五月二十日調)

高等官待遇	判任官待遇	氏名	身分	年額(月額)	現在從事若(關係)シツアル研究	毎月(週)何回	嘱託(年)月
山口昌三	山口昌三	氏名	高等官待遇	年一三五円	現在從事若(關係)シツアル研究	毎月一回	嘱託(年)月
大島義清	大島義清	大島義清	高等官待遇	年一〇〇円	燃料ニ関スル事項研究嘱託	隨時	大正十五年三月八日嘱託
小松茂	小松茂	小松茂	高等官待遇	年一〇〇円	燃料ノ化學的研究ニ関スル事項嘱託	毎月一回	大正十四年三月十日嘱託
安藤一雄	安藤一雄	安藤一雄	高等官待遇	年一〇〇円	製油並其ノ研究ニ関スル事項嘱託	隨時	大正十四年四月一日嘱託
栗原鑑司	栗原鑑司	栗原鑑司	高等官待遇	年一〇〇円	燃料研究ニ関スル事項嘱託	隨時	大正十五年八月九日嘱託
往本誠治	往本誠治	往本誠治	判任官待遇	月一〇〇円	石炭及炭化水素ノ熱分解ニ関スル研究事項嘱託	隨時勤務	大正十五年五月一日嘱託
山本利夫	山本利夫	山本利夫	判任官待遇	月一〇〇円	揮發炭化水素、混合物ノ分離及定量並揮發油、物理的性質ニ関スル研究事項嘱託	隨時勤務	大正十五年五月一日嘱託